

報道機関 各位

平成 24 年 9 月 11 日

【東日本大震災】

これからも被災者とともに

～発災から1年半、進行中の事業をご報告します～

日本赤十字社の主な活動状況（海外救援金を財源とする継続中の事業）


日本赤十字社は、発災直後から約 900 個班にのぼる医療救護班を派遣し、8 万 7 千人以上を診療する一方、ボランティアも参加した多様な活動を行ってきました。

発災から 1 年半、被災地の復旧はまだ充分に進んでいるとはいえない状況の中で、仮設住宅でのこころのケアや孤立化の予防、放射線の影響による健康管理など可能な限り活動を継続しています。

また、義援金の受付につきましても、さらに、平成 25 年 3 月末まで受付期間を延長することを決定いたしました。1 年半を迎えるにあたり、私たちが継続している主な活動について、ご報告いたします。

なお、表中の回数、人数等の数値については、本日（9 月 11 日）時点でのこれまでの実績について掲載しています。

医療支援、こころのケアなど発災直後から実施している活動

活動	継続中の事業（実施予定のものは「予定」と明記）
復興に向けた 医療支援	【医療のインフラ復興・整備】 <ul style="list-style-type: none">・気仙沼市立吉本病院改修 平成 24 年 12 月竣工予定・石巻赤十字病院災害医療総合研修センターの建築 平成 27 年 6 月竣工予定・公立志津川病院再建 平成 27 年度竣工予定 【原子力事故対応】 <ul style="list-style-type: none">・ホールボディカウンター 1 台（福島日赤）、 甲状腺モニター等整備（福島県）・食品放射線量測定器の提供 68 カ所 109 台（宮城県、福島県） 
こころのケア	【1 万 6 千人以上をケア】 <p>発災直後から岩手、宮城、福島県で実施。</p> <p>平成 23 年 9 月末まで避難所を中心：718 名のケア要員を派遣、対象者 14,000 人以上 10 月以降仮設住宅を中心：延べ 157 回実施。対象者延べ 3,913 人。</p>

ボランティア活動	<p>【日本全国で 16 万人以上が活動】</p> <p>活動は、被災地のみならず各県単位でさまざまな支援活動が実施されている。仮設住宅での孤立化を予防したり、運動不足の解消、健康増進を図るためにノルディックウォーキングを実施するボランティア活動など特徴ある活動が行われている。（炊き出し、救援物資仕分け、泥かきなど）</p>
----------	--

被災者の生活支援等を中心とした復興支援活動

仮設住宅居住者への支援	<p>【生活家電セットを寄贈】 プレハブ仮設だけではなく、賃貸（借上げ）による仮設住宅への入居者も含め、133,308 世帯に生活家電セット（洗濯機、冷蔵庫、テレビ等）を寄贈。</p> <p>【コミュニティーバスの運行】（宮城県、福島県） 仮設住宅と学校、病院を結ぶコミュニティーバス 2 台を運行中。</p> <p>【ノルディック・ウォーキングの実施】 仮設住宅での運動不足解消に 52 回、1,000 人以上を対象に実施。（岩手県、福島県）</p> <p>【災害復興公営住宅の建設】 平成 27 年竣工予定（岩手県大槌町）</p> <p>【にこにこ健康教室等の実施】 8 カ所 738 人対象（福島県）</p> 
避難所居住者支援	<p>【避難所の生活環境改善】 血圧計 100 台、緊急時情報提供キット 3 万 5 千セット、AED 講習会等の実施 34 カ所、冷却スプレーなど夏快適セットを 145 カ所、約 24 万点配付。</p>
高齢者への支援	<p>【被災施設へ介護用ベッド 959 台を寄贈】 被災県の高齢者施設 161 施設に 959 台を寄贈。</p> <p>【グループホームへ家電等を寄贈】 被災県の高齢者仮設グループホーム 62 カ所へ 2,239 点の家電・什器を寄贈。</p> <p>【福祉車両を寄贈】 被災自治体へ 332 台、うち高齢者、障害者福祉施設など 103 施設に 203 台を寄贈。</p>
教育支援	<p>【岩手、宮城、福島幼稚園から高校へ多様な支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児と保護者を対象に熱中症予防やこころのケアを実施。（岩手県） ・160 校へ保健室の備品約 1,800 点を整備。（宮城県、岩手県） ・16 カ所の給食センターへ、約 9,000 点の資機材を寄贈。（岩手県、宮城県、福島県） ・スクールバス 17 台を運行中。（岩手県、福島県） ・サマーキャンプ：平成 24 年 7 月 21 日から 1 カ月間、被災地域の小中学生 3,451 人を対象に北海道留寿都村でサマーキャンプを実施。（岩手、宮城、福島県） 平成 25 年度も実施予定。 ・すまいるぱーく：移動型の室内遊び場提供 17,124 人が参加。（福島県） 年内 4 カ所で開催予定。平成 25 年度も実施予定。 

クウェート政府から寄せられた寄付金・総額 401 億円による支援

被災県が実施する事業への支援 [各県により実施予定]	<p>【岩手、宮城、福島県が実施する被災者支援事業等への支援】</p> <p>クウェート政府からの原油寄贈にもとづく 401 億円を各県に送金。それぞれの地域の事情にあわせた優先度や緊急度に従って以下の 8 分野で活用される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域基盤復興 ・医療支援 ・福祉/介護支援 ・教育支援 ・農林水産業支援 ・中小企業支援 ・雇用支援 ・原発事故の被災者支援 <p>平成 24 年度には、各県とも住宅再建支援などの生活支援をはじめとして、岩手県では、三陸鉄道の車両や駅舎の整備、郷土芸能復興支援など、宮城県では、養殖施設や観光施設の復旧など、福島県では、文化財の修復、原発事故被害の中小企業支援など、特色のある活動が実施される。</p>
--------------------------------------	--

義援金(主に国内の個人・法人・報道機関の皆さまから寄せられた義援金)

義援金の受付	<p>【義援金の受付を延長】</p> <p>義援金の受付を平成 25 年 3 月末まで延長。全額が被災都道府県の自治体を通じて、被災者に届けられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付額 3,606 億円 (中央共同募金会受付分を含む) (平成 24 年 9 月 5 日現在) ・15 都道府県への送金額 3,558 億円 (平成 24 年 8 月 24 日) ・被災者への配付額 3,187 億円 (平成 24 年 8 月 24 日) <p>※義援金受付にかかる諸経費は、日赤社員 (会員) 等からの社費等で対応。</p>
---------------	---

※活動の財源について

上記の表で示した「医療救護、こころのケアなど発災直後から実施している活動」および「被災者の生活支援等を中心とした復興支援活動」は、日ごろから日本赤十字社の活動のために寄せられている社費 (会費) や寄付金、並びに海外の赤十字社から寄せられた海外救援金 580 億円に基づいて実施されています。

義援金はこれらの活動には一切使われていません。全額が被災都道府県および市町村を通じて被災された方々に届けられています。

■本件に関するお問い合わせ先

日本赤十字社 企画広報室

TEL / 03-3437-7071